

## 秀賞

### ゲートが開くまでに

新潟県粟島浦村立粟島浦中学校

2年 菊池 芙優

ジョッキーになって活躍する。これは、私が小学校2年生の時に持ち始めた夢だ。

私が幼い時からこんなに大きな夢を持ったのは「馬」という存在に出会ったからだ。

福島の祖父母に牧場に連れて行ってもらい、そこで乗馬体験をしたのがはじまりだった。「何これ!? すごく楽しい!」乗る前はどんなものなのか不安な気持ちが少しあったが、乗った瞬間に楽しさがこみ上げてきて言葉を失ってしまった。この感覚は今でも体に染み付いている。そんなことがあり、私は馬についてもっと知りたい、馬に関わる仕事につきたいと思い始め、「ジョッキー」という仕事を見つけた。ジョッキーとは、馬主さんから依頼を受けて、その馬と一緒に勝利を目指す仕事だ。ジョッキーになるには、「競馬学校」という登竜門がある。競馬学校とはJRA日本中央競馬会が運営する騎手になるための教育訓練施設だ。ここまで聞いた人たちの中には「その学校に入れば騎手になれるんでしょ?」と思う人がいるかもしれないが、実際はそんなに簡単なものではない。毎年、競馬学校の合格者は30人にひとりで、さらにそこから騎手になれるのはごくわずかというとても狭き道なのだ。調べていく中で、私が一番目にとまったのは、親元を離れて自立し、過酷なトレーニングをしなくてはならないことだ。毎日のように家族に甘えていた私にはとても考えられなかった。

ある日、友達のおばあちゃんが私に「しおかぜ留学」という留学制度を教えてくださいました。その留学は、日本海に浮かぶ新潟県の小さな島「粟島」で親元を離れ自立する力をつけて、馬との共生を通し自分の心身を鍛える離島留学制度だ。「私が求めていたものはこれだ。」と、この話を聞いて2秒でここにいくと決断した。初めての面接で、しどろもどろになりながらも自分の夢や熱意を全力で伝えられた。そして、迎えた合否発表で見事合格することができた。しかし、「全部自分でやらなくてはならない。」「もし、こうなったら、あんなったら。」と考えてしまいうれしさとともに不安が募った。涙をこらえた。そんな中ついに島に渡る時が来た。でも、島に渡る前の私とは違い、初めての粟島に興奮して不安は波のように引いていった。粟島で過ごして1週間、1カ月が過ぎていき自分のことがだんだんできるようになってきた。そして、馬の恩師に出会った。その先生に出会ってから、技術的な面もそうだが、乗り手としての心構え

とプロ意識も教わった。

私には、武豊さんという憧れの騎手がいた。武豊さんは日本のトップジョッキーだ。そう言われるのもおかしくはない。誰もが認める技術や、きれいでぶれないフォーム。それから、馬が第一の思い、努力、馬だけではなく人付き合いのうまさなど、騎手にとって大切な力を兼ね揃えている結果、前人未到の通算 4766 勝は現在も記録更新中だ。私以外にも憧れている子たちはたくさんいるだろう。しかし、その先生に出会ってから、憧れからライバルに変わった。なぜかというジョッキーになって終わりではなくそこから、勝つまでが私の夢だからだ。そして、いつの間にか夢の実現に向けて頑張っている私がいた。前までは、テレビなどで一時的な楽しみを消費する毎日だったが、今では明確な夢があるおかげで時にはつらいこともあるが毎日が楽しい。私は知った。夢は大きな原動力になりすごく重要なことを。

中学1年の夏休みに私は日本中央競馬会が主催する「全国ポニー競馬選手権」通称「ジョッキーベイビーズ」の東北新潟地区代表決定戦に参加した。その大会では普段騎手と馬たちが走っている馬場で走ることができ、私もそこで走ることができた。惜しくも結果は2着だったが、夢に向けてのいい経験になり感動したが、私よりもっと感動している人がいた。それは家族をはじめとする親戚だった。姉はおえつが止まらず、祖父の涙を初めて見た。そこで、思ったのは、夢は自分のものだけではなく、自分以外の人と共有できるのだと。

馬に出会ってからの私のストーリーはまさに奇跡だ。もしあのとき会うことができなかつたら夢の大切さに気付けなかったと思う。夢は私にとって大きな原動力で、夢があることで成長することができる。そして、それは人々に共有できる。誰かのきっかけになる。だから、夢の大切さを実感してほしい。

最後に、「ジョッキーになって活躍する」はここまでずっと夢だと言ってきたが今は目標にしている。なぜかという絶対に手に入れたいからだ。これから、全部が楽しくてうれしいことはない。時には、つまずき挫折することだって多々あるはず。でも、今までの経験や周りの人の応援を胸にスタートを切ろうと思う。